

実践紹介集（平成30年度）

浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

地区	No.	事業名	実施団体名
浜田	1	防災まつり♪	田町まちづくり推進委員会
	2	歴史と文化を大切にするまちづくりに向けた環境整備事業	えびす新町まちづくり推進委員会
	3	みはしネットがしかける 地域・学校・家庭の連携強化事業	みはし地域まちづくりネットワーク
	4	「助けて！」と言える関係をつくる事業 ～防災意識啓発および技能向上事業～	
	5	地域で守り、拓げていく広浜鉄道今福線	佐野・宇津井地区まちづくり推進委員会
	6	美川地域防犯意識啓発事業	美川地区まちづくりネットワーク
	7	持続可能な美川に向けた子育て世帯定住促進事業	
	8	絶滅危惧植物の保全をつうじた地域コミュニティの再生事業	久代地区まちづくり推進委員会
金城	9	魅力ある農産物栽培実践事業	今福地区まちづくり推進委員会
	10	妖怪（河童）伝説活用事業	美又湯気の里づくり委員会
	11	小さな郷づくり推進モデル事業	雲城まちづくり委員会
	12	地域おもてなし環境整備事業	縁の里づくり委員会
旭	13	木田美景観事業/木田魅力アップ事業	木田まち自治会
	14	菖蒲で勝負！農地整備保全事業	都川地区まちづくり推進委員会
弥栄	15	まちづくり活動を広げよう！	安城地区まちづくり推進委員会
三隅	16	黒沢中学校拡大同窓会	黒沢まちづくり委員会
	17	環境・景観保全事業 (ひまわり園開設及び野山嶽景観保全事業)	まちづくり推進委員会 INO

事業名

防災まつり♪

事業費（予算額）：500,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000 円）

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

田町は市街地であるが、若者が少なく高齢者の占める割合が高い。要支援者の避難支援を高齢者が行わざるを得ないのが現状である。健康で明るく過ごせる地域を目指すとともに、日ごろからの近所同士、町内同士で「顔の見える関係」を作っておくことで、災害等が発生した場合でも助け合える体制を築いておくことが必要である。みんなが安心して、この地域に住んでいて良かったと思えるようなまちづくりを目指している。

D 事業の概要

「子供」や「高齢者」を主役として「防災」をテーマに参加者が一緒になって、災害から身を守る、地域を守ることを考えながら「顔の見える関係」になれるよう「防災まつり♪」を計画して実施した。

①避難所運営ゲーム（HUG：ハグ） 浜田市安全安心推進課の協力を得て、各町内別にグループを作り、問題点を挙げながら体験した。町内により、予想される災害が異なる地域もあるので、同じ条件である近隣住民をグループとして、本番さながらの避難所運営を考えてみた。

②非常食試食会 混ぜご飯やパスタ、おにぎり、けんちん汁等、各種の非常食を試食してもらい、「超美味しい」「美味しい」「美味しくない」をカラーシールで分別してもらうアンケート調査を行った。イベント終了後、アンケートの結果を重視して好評だったものを購入した。

③その他 「防災ガイドブック」と「非常持出し5点セット」を補助金で購入させていただき、参加者全員に配布した。

C 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

						○			
--	--	--	--	--	--	---	--	--	--

・上記評価の理由

スタッフ30人による反省時のアンケートに基づき総合評価は「7」とした。今回が3回目のイベント開催となったが、参加するメンバーがほぼ一緒だったこと等を考えると今後の課題も多い。次回は1人でも多くの参加者が集まり、助け合い、協力しあえるようなイベントを企画したい。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- ・今までのイベントは、市へ申請して企画が承認されたからできたものであった。今後は交付金をもらわなくても各町内からの補助金等で賄えるような範囲でのイベントを企画する。
- ・スタッフだけがイベントの企画をするのではなく、各町内の意見を聞いて、無理のない程度に、自分ができることを手伝ってもらえるようにする。



事業名

歴史と文化を大切にすまちづくりに向けた環境整備事業

事業費（予算額）：610,620 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000 円）

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

浜田には歴史文化を伝える貴重な地域文化財があるにも関わらず認知していない人が多くいる現状から、それらを表示説明する看板等を設置することで広く宣伝し後世に分かりやすく伝えることで地元への愛着の念を醸成するとともに地域の誇りを高めることを目的とする。

D 事業の概要

1. 新町大橋のたもとには、江戸時代に浜田藩の高札場が置かれ、市井の人々に告知・伝達が行われた。それに加え、浜田八町を中心にして浜田のまちづくりが進展・発達してきたことを説明する説明板を大橋たもとに設置をする。
2. 蛭子町の神並山天満宮の境内に筆供養のための筆塚があり、説明標柱が設置してあるが、長年の腐蝕により判読不明になっている標柱を、石柱に改修して正しく伝えられるようにする。

C 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

・上記評価の理由

高札場も筆塚も立派で分かりやすい説明板と標柱を設置することができ当初の目的を達成できた。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

今後は、浜田公民館・小中学校等とも連携して地元のふるさと教育の教材や歴史文化を学ぶ資料として活用していただきたいと考えている。



事業名 みはしネットがしかける 地域・学校・家庭の連携強化事業
2019年度 新入学保護者・児童交流会

事業費（予算額）： 135,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 500,000 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）

三階小学校の新入生は複数の保育園・幼稚園からの入学してくるため、親子共に顔見知り少なく、つながりが希薄である。そのため入学前から親同士気楽にコミュニケーションが取りにくく、不安感がある。

- ① 保護者同士が気楽にコミュニケーションが取れる関係を作ること、孤立を防ぎ、安心して子育てできる環境を提供 ②新入学児童が学校生活を楽しみにできたり、地域とのつながりづくりのきっかけとする。

見込まれる成果

- ① 保護者の大半が参加し、連絡先を交換したり、入学への不安についてアドバイスをもらい、不安が軽減される。 ②新入学児童が小学生や地域住民と楽しく交流し、入学を楽しみにできたり、地域住民とのつながりができる。

D

事業の概要

- ① 三階小学校ミーティングルームで新入学の保護者同士の交流会を開催する。

【保護者交流会内容】 浜田親子応援プログラム（HOOP）体験／ みはしネット、はまだっ子共育プロジェクト、まちの縁側の取り組み紹介／ お茶を飲みながら保護者同士の交流タイム

- ② 体育館で新入学児童の交流会を開催する。

【児童交流会内容】 運動遊びプログラム（リーベ）の体験／ 新6年生や地域ボランティアと交流会

事前の動き

平成30年11月 交流会案内チラシの作成／学校説明会での交流会PRの方法を学校長に了解を得る。

運動遊びプログラム講師との打ち合わせ

学校説明会で保護者へ交流会のPR（チラシ、参加申込みハガキ配布）

平成31年 2月 交流会の新6年生ボランティア募集／HOOPファシリテーターと打ち合わせ

当日

平成31年3月17日（日） 9:30～11:30 会場：三階小学校ミーティングルーム・体育館

参加人数：37名（児童と保護者19名、新6年生児童ボラ7名、子ども部会部員7名、HOOPスタッフ4名）

工夫したこと：参加者を募集するため新入生物品購入時などに声かけを行った。



なごやかに
保護者HOOP体験中



児童と新6年生
運動遊び体験中。
上級生が優しくフォロー



新6年生考案
しっぽとりゲーム中
まって～！



入学を待ってます！
みんなで記念撮影

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○		
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

・上記評価の理由

参加の保護者から「とても良い取り組みなので、たくさんの方が参加できたらいいの」という感想がありました。児童は、楽しげに新6年生や地域ボランティアと体験活動や交流をしていた。穏やかに接している上級生が頼もしく、安心感がありました。内容も充実したプログラムであり、さらに多くの保護者が参加できるよう検討が必要。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと
（評価を10に近づけるために）

- *参加人数を増やすための取り組み
- ・開催時期を検討する。
- ・告知の方法を検討する（保育園、幼稚園でもPR）
- ・学校の協力をさらに得る。

事業名 みはしネットがしかける 地域・学校・家庭の連携強化事業
「三階小学校6年生によるお化け屋敷」

事業費（予算額）： 225,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 500,000 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）

- ＊次世代の地域を創生する人材育成のため地域・学校・家庭、多様な主体が連携協働していくこと。
- ＊三階小児童が、地域の課題を知り、まちづくりを担う地域住民と出会う。
- ＊児童から地域へ発信・提言することで、地域住民も活力を得る。

見込まれる成果

- ＊児童の主体性や自己有用感を育むことができる。
- ＊三階小児童が学習成果を地域へ発信し、地域住民に活力を与える。

D

事業の概要

- 内 容：昨年度の5年生がみはし☆まつりで開催した「おばけやしき」を、より多くの子どもたちに届けられるように、石見小学校の児童クラブが開催するお店屋さんごっこコラボして開催した。自分たちでつくったチラシを石見小・三階小の児童に配布。その他、石見公民館や浜田のまちの縁側に掲示した。
- 事前の動き：石見小学校の児童クラブとコラボ開催するため、児童クラブのスタッフ、三階小6年担任、子ども部会、石見公民館主事と打ち合わせ
- 当 日：平成30年7月26日（木）13:00～16:00 会場：石見公民館 研修室
- 参加人数：約200人（児童や保護者、地域住民うち6年生児童26名、子ども部会部員3名含む）
- 工夫したこと：三階小学校6年生と石見小児童クラブの子どもたちが、今回の体験を学びへと深めることができるように、振り返りの会をもった。



児童がデザインしたチラシ
三階小・石見小に配布
公民館・まちの縁側に掲示



お化け屋敷の入場券を作成
無事に出てきた子どもに
グミの進呈



お化け屋敷の入口で他校の
下級生に優しく声かけする
6年生



三階小6年生の司会進行で、
石見小児童クラブすぎのこの児
童と共に、終わりの会を開催

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

・上記評価の理由

小学校と協働で授業づくりをするには、前年度からの打ち合わせが必要で、今年度はすでに取り組みされた教育活動を地域へ開いた取り組みであった。活動事態はねらい通りの成果が得られた。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと
（評価を10に近づけるために）

- ＊みはし地域のまちづくりの活動と三階小学校の授業を結ぶ学習プログラムの開発。
- ・今年度すでに来年度に向けて、小学校と打ち合わせを重ね、5年生を対象に防災学習を協働で進めることになった。



「助けて！」と言える関係をつくる事業
～防災意識啓発および技能向上事業～

事業費（予算額）：550,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000 円）

- P**
- ① みはし地域の各町内会・自治会が、非常時には「助けて！」と近隣町内会・自治会に言い合える **関係**になれることを目標としています。
 - ② もって非常時には、みはし地域内外の町内会・自治会が助け合って、日常に戻るまで頑張りあえる **関係**を築き上げていきます！

D 【3年間の主要事業（予定）】

- ① 底上げ事業
 - 1) 防災講演会の開催
 - 2) 災害ボランティア支援事業
 - 3) 防災 PR 活動（追加事業）
- ② リーダー育成事業
 - 1) 各種技能研修
 - 2) 被災地視察

今年度は三階小学校 PTA 主催の「みはし☆まつり」にて防災をテーマにした展示や体験コーナーの **運営**を行うことで、地域の方々が防災について考えられる機会を創出しました。来年度は、防災講演会と被災地視察を予定しています。



消火器訓練



防災グッズ体験コーナー



起震車体験



山陰中央新報 11 月 20 日

C 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

						○			
--	--	--	--	--	--	---	--	--	--

今年度1年間の進捗としては「7」程度ですが、防災力強化という大きな課題の解決度合いはまだまだ「1」です。数年で解決できる課題ではありません。気長に、地道に、着実に進めてまいります。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- ☆ 地域の個人が防災を意識する機会が増えるよう、PR活動を続けます。
- ☆ 町内会・自治会や一般市民が参画しやすい事業を企画立案していきます。
- ☆ 防災部会員の個人個人の技能を高めるよう研修を積み重ねていきます。

事業名

地域で守り、拡げていく広浜鉄道今福線

事業費（予算額）：500,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000 円）

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果
佐野・宇津井地区には、地域が誇る観光資源である広浜鉄道今福線の遺構があり、これを目指してくる観光客も年々増加傾向にある。この資源を維持、発展させ、より観光客を呼び込むことで地域の活性化につなげたいと考えた。そのためにはまず環境整備、後継者育成、地域の意識醸成が必要であった。

D 事業の概要
哲学の道と称する直線の先に今福線の観光名所の新旧合流地点があるが、車を U ターンする場所もなく、またイベントを行っても集える場所がなかったこと、更に周辺の草刈りを行う際に車両の出入りが困難な通路もあったことから今回この事業を計画することとした。

- ・ 時期は、平成 30 年度の伐開処理がしやすく、落葉する晩秋時期に実施することとした。
- ・ 作業は、新旧合流地点の伐開、埋め立て、併せて通路の一部の埋め立てを同時期に実施。
- ・ 佐野・宇津井地区まちづくり推進委員会今福線部会を中心とした同委員会メンバーにおいて実施。
- ・ 重機等作業には資格者を配置し安全な作業を徹底した。
- ・ 最終的に、哲学の道へ張り出した樹木の伐開についても併せて処理し見晴らしを良くした。

今後、観光客もさることながら、地元住民を招いての交流会の開催等イベント開催が行われるようになり各種拠点として活用する事が出来るようになった。これは、地元住民へ改めて今福線の素晴らしさに気づいてもらうための場所とすることができ、地元の意識を高めることも出来る。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

							○			
--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--

・ 上記評価の理由

今回目標とした環境整備は出来たものの、新旧合流地点までは行くことが出来ないフェンスがあり、現状では今福線の良さが少し分からないところがある。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

今回整備した場所については、交流会やイベントの開催、環境整備への地元住民の負担軽減につながったと判断されるが、今後人が集まると更にトイレなどの設備が必要となってくると思われ、これらを整備して行くことが必要不可欠と判断される。



事業名

美川地域防犯意識啓発事業

事業費（予算額）： 327,216 円 （まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 327,216 円）

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果
美川地域は、美川保育園、美川幼稚園といった未就学児から、美川小学校、浜田第四中学校といった就学児まで、特に犯罪に巻き込まれやすいとされる世代が多い。
こうした世代が、安心して登下校でき、生活しやすい環境を整えることで、子育て世代にとって住みやすい地域をつくることにより、美川の魅力をより高めていきたい。

D 事業の概要
これまでは、内村駐在所、青パト隊、美川交通安全協会、美川防犯協議会（見守り隊）等と連携し、子供たちの見守りを図ってきたが、下校時に時間差があり見守り等手薄となってしまうという課題があった。そこで、特に児童の通行が多い美川小学校前交差点及び牛谷交差点に1台ずつ防犯カメラを設置し、犯罪の抑止とともに美川地域住民の防犯意識の向上、子供たちに犯罪に対する正しい知識を身につけてもらうことで『犯罪のないまち みかわ』を確立させる。
防犯カメラを設置して終わりではなく、美川の企業等に協力を仰ぎ、新たに「美川防犯協力会」を立ち上げた。この協力会を中心として、『犯罪のないまち みかわ』を目指して今後も事業の継続を図っていく。

C 課題の解決度合（10段階の自己評価）
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

										○
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

・上記評価の理由

防犯カメラ設置場所周辺の地域住民には、防犯意識が向上したが、まだ美川全域には達していない。
美川防犯協力会が中心となって、意識を高めるための取組が必要と感じている。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと
（評価を10に近づけるために）

美川防犯協力会と他団体との連絡調整をし、
犯罪抑止活動（報告会・のぼりたて・広報）等
進めていく。



事業名

持続可能な美川に向けた子育て世帯定住促進事業

事業費（予算額）：520,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000 円）

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

日本全国で大きな問題となっている人口減少については、ここ美川においても例外ではなく、日本の先端を進んでいる。小学校等の児童の減少、店舗の減少、このまま何もせずにいると地域の衰退がさらに加速してしまう。

そうした危機感から、平成 29 年度より、人口減少対策会議を毎月開催し、ワークショップ形式を主軸に地域のアンケート調査・分析等を進めてきた。平成 30 年度から、さらに目で見える形で人口増加対策を進めていき、他地域のモデルとなるような取り組みを目指す。

D 事業の概要

・美川人口減少対策会議において議論し、子育て世帯の定住及び地域活性化を事業の大きな目的とし、以下条件により子育て世帯移住者の募集を実施。また、募集にあたっては有志のプロジェクトチームを立ち上げ、随時協議を行っている。

- (1)小学生以下の子どもがいる世帯
- (2)平成 30 年 10 月 1 日以降、美川地域に転入される世帯
- (3)移住後、美川の地域づくりに積極的に関わることのできる世帯

- ・条件に合う世帯を募集し、面接を経て対象世帯を決定。対象世帯には、1 月 1 万円程度の活動費を支給し、美川の会議等に出席していただく。
- ・4 世帯募集しているが、現在 1 世帯が決定。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

				○						
--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--

・上記評価の理由

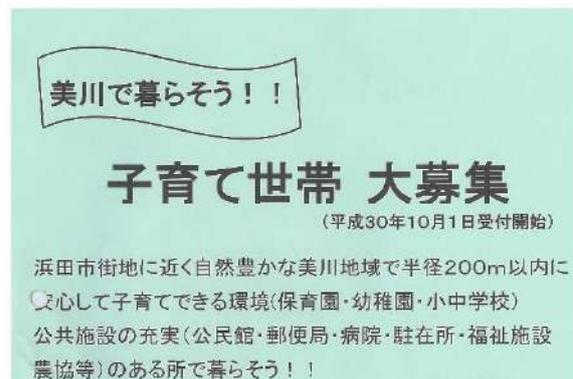
- (1)目標世帯数の達成状況
- (2)移住された方を地域全体でどのようにフォローし、どのように関わってもらうかについて、意識の共有、組織の方向性がまだしっかりと定まっていない。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

- (1)引き続き、ホームページや口コミを活用し、制度の周知を図っていく。また、移住希望者へ紹介できる空き家情報等の集約を図る必要がある。
- (2)移住世帯をサポートできる体制づくりが喫緊の課題であり、そのためにも各関係者がこの事業を「自分ゴト」として捉えるための意識改革の取り組みを実施する必要がある。



美川で作成したホームページ



子育て世帯募集のチラシ（一部抜粋）

【事業名：絶滅危惧植物の保全をつうじた地域コミュニティの再生事業】

事業費（予算額）： 398,700 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 円）

P 事業の目的（解決を目指す課題）

- ◎ 地区に於いて代々守り続けていた「ハマボウフウ」が、自生している海岸から乱獲により激減し絶滅のおそれがある。保護保全に取り組む重要性。

見込まれる成果

- ◎ 子供達を含め、地区の皆で取り組む事により地域資源である「ハマボウフウ」への理解と愛着をより深められ資源の回復が望める。
- ◎ コミュニティの活性化が図られ後継者となる保護者世帯らと取り組む事により地域の構築向上。

D 事業の概要

- ☆ 乱獲防止及び地区で「ハマボウフウ保護保全活動」に取り組んでいる看板設置「5ヶ所に」
- 《 自生している個体から種子取り作業⇒ポットに播種作業⇒保護、保全区域に植え付け 》3年計画
- ☆ 種子取り作業・30年7月～8月「4回」子供達を含め皆で多くの種子採取が出来た。参加者延85名
- ☆ 播種作業・30年11月,12月,31年1月,3月に行いました。4月,5月も予定。参加者延80名
- ☆ 植え付け作業・苗が育って2～3年後の春（5月頃）保護区域（看板設置周辺）に植え付け予定。
- ☆ 育てた「ハマボウフウ」を使った料理教室イベント等開催。
- ☆ 環境美化・,海岸周辺の清掃活動実施. 多種のごみの収集をしました。今後も環境美化活動予定。

C 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
					○				

・上記評価の理由

3年計画の中で順調な滑り出しだと思います。地域の方に「ハマボウフウ」の実態を周知する事が出来た。自然相手の事業なので育苗等まだまだ手探り感が強い。共同作業を通じ意識は地域の皆が共有出来活性化に繋がった。広報（山陰中央新報）で,2度啓発することが出来ました。〔 6/5・8/25 〕

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- ☆ 地域の資源として意識付けし今後向上させる。（地域の問題＝地域コミュニティの構築）（手段・手法を活かして最終目標の達成）
- ☆ 地域の多くの人に参加して頂き共有を深める。
- ☆ 種子の発芽,育成,自生海岸への植え付け,と継続し成功させたい。取り組みの拡大を図る。（国府地区、各種団体等に）☆ 取り組みを広報等で(新聞等)掲載して戴き活動をアピールしたい。



8月12日：個体から種子取り作業（看板設置周辺）



31年1月5日：育成ポットに播種作業をしました。

事業名

魅力ある農産物栽培実践事業

事業費（予算額）： 509,760 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 500,000 円）

P ・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果
魅力ある農作物の生産により収益化が可能だということをモデルケースとして示すことで、より多くの若い世代に農業に関心を持ってもらう。ブドウ栽培技術を次世代の農業者に伝承し、ブドウ栽培者の育成・増員を図り、併せて、耕作放棄地の解消に努める。
また、生産したブドウの販売による収益は、今福地区まちづくり推進委員会の自己資金とし、まちづくり委員会の活動の幅を広げるための手段とする。

D ・事業の概要
シャインマスカット栽培のモデル的な施設とするため、地区内にある空きハウス（300 m²）にブドウ棚を整備した。
従前からブドウを栽培している方から栽培技術を学びながら地域住民と作業することにより、農業生産意欲の高揚を図り、ブドウ栽培技術の向上に取り組んだ。
また、取組内容や成果を地区のイベント等で周知するなどし、住民の関心が得られるように取り組んだ。

C 課題の解決度合（10段階の自己評価）
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

		○								
--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--

・上記評価の理由

本事業によりぶどう棚を設置し、ブドウの植栽はできたが、施設の整備完了までは、周辺環境整備（草刈り、溝掘りなど）をする必要があり、また、課題の解決や地域活性化は整備完了後の活動が肝心となるため、道半ばという意味で評価 3 とした。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

2 年後には順次収穫可能な状態となるように努め、5 年後の成園確立を目指し、その間にも研修や研鑽に励み、生産技術の向上に努める。

農業に係わる取組は短期間で成果が出るものではないが、より多くの若い世代に農産物生産に関心を持ってもらえるよう働きかけ、将来にわたって持続可能な農業生産体制の構築を目指す。



申請団体名：美又湯気の里づくり委員会

平成 30 年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

妖怪（河童）伝説活用事業

事業費（予算額）：513,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000 円）

P

・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

○美人の湯「美又温泉」だけでなく、地域に言い伝えのある河童伝説や妖怪などを活用し、その相乗効果によって地域の活性化を目指す。妖怪に関連した商品開発も行い、産直市場で販売することで産直市場の売上増を図る。

○美又地区では、まちづくり委員会、NPO 法人、旅館組合、公民館などが地域活性化に向けて取り組んでいるが、それぞれ個別の活動にとどまっており、地域一丸となった活動になっていないことが課題である。

D

・事業の概要

○統一したロゴ入りのユニフォーム（ポロシャツ）を作成し、地域活性化のために活動する各団体の構成員に配布し、イベント時に着用する。

○美又温泉に来た記念になるよう、妖怪が書かれた顔出し看板を作成し設置する。

○河童伝説などの言い伝えの場所や近隣の石碑などに美又温泉を中心として何歩で行けるかを記載したお散歩マップ・看板を作成する。

C

・課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

					○				
--	--	--	--	--	---	--	--	--	--

・上記評価の理由

○ポロシャツ・顔出し看板・お散歩マップは製作して活用しているが期間が短いので効果はまだ見られない。継続して活用・設置する。

○美又に妖怪のイメージを定着させるため、妖怪に関するグッズを作成・販売し始めた。

A

・事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

○これからも継続的に地域全体で同じ妖怪ポロシャツを着用しイベント等を行うことでお互いに支えあい、協力し合おうという機運が高まる。また、活動のPRにもなり、住民の関心が高まる効果も期待する。

○お散歩マップを見て各所を見て回ってもらうような工夫をし、美又地区（金城町）をもっと知ってもらうようにしたい。

顔出し看板



妖怪ポロシャツ



事業名

小さな郷づくり推進モデル事業（継続事業）

事業費（予算額）： 550,000 円

（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000 円）

P ・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果
高齢化と人口減少で耕作放棄地の急拡大、里山荒廃、空き家や独居世帯の増加等、地域には様々な問題があるが、この課題に取り組もうとする住民は少なく無関心は集落崩壊を招きかねない。雲城地区は1000世帯、21町内会があり町内会ごとに課題は様々である。
町内会の多くの住民が地域の現状（問題）に関心を持ち、話し合い、共有し、住民自身が課題の解決に向け具体的な取り組み（行動）と事業を行い“やればできる”を体験し住民自身による課題解決へ取り組みを加速させる“きっかけづくり”と町内リーダの育成を目指すモデル事業を行う。

D ・事業の概要
・実行委員会による郷づくり支援体制（まち委・公民館+県や市の関係部署）
実行委員会にモデル候補の町内会の会長等に入ってもらい町内会の問題や課題を整理、その後に町内会に出向いて町内住民とのワークショップを開催、思いや意見を聴き整理し事業へ結び付けた。
・郷づくり見える化シンポジウム“まちづくり Mini フェスタ”を開催し4団体の事業事例を紹介
地域住民と関係者併せて約100名の参加者があり、それなりの事業効果はあったと思われる。
・過去2年間の事業実施町内会への継続支援（青原・新開・金田・伊木）と新規に取り組む町内会に対して郷づくり推進の支援を行った。

C 課題の解決度合（10段階の自己評価）
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

- ・上記評価の理由
- ・まちづくり委員会主体でなく町内会主体の実施事業であるため判定しにくい。
- ・高齢化率の高い町内会に対する支援が不十分

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- ・高齢者だけの町内会の課題解決事業をどうするか見つかっていない。（社会福祉協議会の協力も仰いでいるが具現化、具体化が進まない）
- ・実施町内会への継続支援と未実施町内会への取り組みのアプローチ



申請団体名：縁の里づくり委員会

平成 30 年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

地域おもてなし環境整備事業

事業費（予算額）：485,672 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：485,672 円）

P

・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- ① 案内板に近づかなくても文字の判読が可能になり、また、どの方向からでも見えやすくなるように改善し、いつ来られるかわからない外からのお客さまに対しても、より良いご案内・おもてなしを提供できるようにする。
- ② 地域活性化の一環として取り組んでいる盆踊りなど、夜間に開催されるイベントにおいて、屋外で使える照明灯を設備し、参加した住民たちの表情をはっきりさせることで賑わいを創出し、また安全・安心な環境を確保したい。

D

・事業の概要

- ① 地域内 5 か所に立てられた案内表示板内の文字の修正及び案内表示を見えやすくするため案内板の位置調整を行う。
- ② 夜間、屋外で使用できて、持ち運びも可能な「バルーン照明灯」を 2 機整備する。

C

課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

・上記評価の理由

- ① 日焼け等による経年劣化のため案内板内の文字が見えづらくなっているのが改善された。
案内板の取付位置（高さ）を変更することで、どの方向からも見やすくなった。
- ② 盆踊り等の夜間行事の安全・安心性が確保された。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

- ① 案内板を改善したことにより、今後も道路周辺の草刈り等、環境整備を行おうとする気持ちが地域住民に根付き、町全体の景観保全・イメージアップにつながるようにしたい。
- ② 小中学生を対象としたキャンプのほか、地域内各所で開催するイベントや災害発生時の照明として使用するなど、地域の防災対策としても活用したい。



申請団体名：木田まち自治会

平成 30 年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

木田美景観事業 / 木田魅力アップ事業 (H30/6月～H33/3月計画)

事業費(予算額): 500,000円(まちづくり総合交付金課題解決特別事業: 500,000円)

P 事業の目的(解決を目指す課題)や見込まれる成果
地域の空き家・耕作放棄地を住民が把握する。所有者との確認も必要。現状で放置した場合の防災や景観を損ねることを想定し、空き家の整理や、耕作放棄地を活用する取り組みを行なう。

D 事業の概要

〈空き家調査〉
～7月末～
各地区評議員が調査を行った。後に市へ提出し、市から持ち主へ連絡。交渉など必要であれば住民が行う事もある。

〈耕作放棄地活用〉
～7月末～
目立つ場所にある荒れ地の土地の所有者に許可をもらい、草刈りを行った。その後の意見がまとまらず今年度はそのまま放置。放棄地の場所確認を行い地図に記す。今後はH31年度5月頃草刈りを行いひまわりを植える。8月頃に咲けば景観としても明るくなる。9月その種を採取。油を搾るなどしてそれを活かす取り組みをする。

〈防災マップ〉
～毎月～
公民館が木田さんぽ♪を行なう。これまで散歩した場所の地図をすでに作っていて、距離や危険箇所の把握もできている。今後、どのような地図にするのか、内容を細かく協議。

〈木田さんぽ♪〉
公民館が呼びかけ、毎回5かぶつ歩きながら危険箇所や地域の様子を見る。地図を持って歩き、気になる事があれば書き込む。
・4月2日(18名)
・5月28日(10名)
・6月25日(9名)
・11月13日(9名)
・3月12日(8名)
新年度も継続する予定。

C 課題の解決度合(10段階の自己評価)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



・上記評価の理由

耕作放棄地について、ひまわりなど鑑賞できるものを植えてその後ひまわり油の搾油を検討中。
空き家調査は掘り起しは完了。
防災マップは木田さんぽ♪で地図のベースを作成。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと(評価を10に近づけるために)

役員改正などがあり、次年度への引き継ぎが大事。継続できるよう、課題や目的の共有をきちんと行なう。課題を放置しない。取り組みの計画の詳細を決める。前年度の役員と新年度役員が引き継ぎも兼ねて一緒に話し合う場をつくる。耕作放棄地は再度整備を行いそこで作ったものを販売を目的として加工など行なう取り組みにしていきたい。

空き家の調査表。地区評議員に担当地区の空き家について調べてもらった。

荒れ地になっていた土地を部会のメンバーで整備した。その後の活用について検討中。



空き家調査表

所在地	浜田市聖町水田	行政区	5区
種別	新築	本建	平屋
用途	住宅	住宅	住宅
面積	約100㎡	約100㎡	約100㎡
所有者	氏名	連絡先	
管理者	氏名	連絡先	
調査項目	<input type="checkbox"/> 現状で居住可能 <input type="checkbox"/> 簡易居住可能 <input type="checkbox"/> 居住不可 <input type="checkbox"/> 定評の設備 <input type="checkbox"/> 宅内・建物の劣り <input type="checkbox"/> 土地・建物の全て <input type="checkbox"/> 電線の見直し <input type="checkbox"/> 貸借の意向 <input type="checkbox"/> 売却意向 <input type="checkbox"/> 前住者の意向 <input type="checkbox"/> 前住者の意向 <input type="checkbox"/> 空き家バンク登録 <input type="checkbox"/> 売却完了済 <input type="checkbox"/> 売却意向 <input type="checkbox"/> 売却予定あり		

物件所在地

事業名

菖蒲で勝負！農地整備保全事業

事業費（予算額）：476,000円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：476,000円）

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果
高齢化が進み荒廃する耕作地が増加する今日、耕作地を菖蒲園に改造することにより、圃場の保全と景観対策に寄与でき、地区民の癒しの場となる。

D 事業の概要

2018年6月～7月	菖蒲園の改造	面積20a	参加延べ人数	18人
2019年2月15日	今後の取り組み打ち合わせ会		参加人数	9名
2019年2月～3月	菖蒲園の整備	除草シート張	参加延べ人数	23人
2019年 4月	菖蒲苗の植え付け			
2019年 5月	菖蒲園周りの草刈			
2019年 8月	菖蒲園周りの草刈			
2019年10月	菖蒲園周りの草刈			
2020年 5月	菖蒲園周りの草刈			
2020年 6月	菖蒲祭り			

C 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

				○					
--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

・上記評価の理由

- 1、20aの菖蒲園の土台完了
- 2、除草シートで草取りの軽減
- 3、苗植えがまだ(4月中)

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと
(評価を10に近づけるために)

- 1、菖蒲園の拡大
- 2、菖蒲祭りの開催
- 3、苗株の配布
- 4、若者の参加（大学生等）
- 5、棚田まつり、縁側喫茶等と連携し観光スポットにする



事業名

まちづくり活動を広げよう !

事業費（予算額）： 363,000 円（内まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 363,000 円）

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- ① 弥栄の朝市(や市)の集客数や新規出店者の増加を目的とする。
- ② まちづくり活動の将来的な展望を見据え、「子どもまちづくり委員会」を発足させ、まちづくり委員会が実施する活動や事業に地域の子もたちが積極的に参加する機会を作る。

D 事業の概要

- ① まちづくり事業が始まった当初から続いている「弥栄の朝市(や市)」であるが、更なる集客数や新規出店者の増加を目的とした広報活動を展開するため、浜田市内や他地域の方々にも広く知ってもらえる新聞折り込みチラシを 2 回、また通常チラシも作製し配布した。
- ② 子どもまちづくり委員会の発足式を行い、任命書と記念ファイル等を授与し、子どもまちづくり委員の名刺をパソコンで作成し所持するようにした。早速「二十歳の集い」事業では、アイデアいっぱいの案内状の作成や、式典での裏方の仕事も分担した。
また、子ども支援事業である「やさか塾～冬合宿」の準備、運営にも参加した。他にも「ウルトラマラニック」のエイドに出店するための準備も公民館と共に行った。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

							○			
--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--

・上記評価の理由

- ① や市新規出店者 2 件が増加、フリーマーケットも漸次増加して定着感がある。
- ② 子どもまちづくり委員会は今年度 5 名で発足したが、次年度も新たな委員の参加が見込まれる。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

- ① 他地域からの同時開催イベントの申し込みもあり、期待値は強いと感じるが、計画準備、当日の運営等委員の負担軽減等新しい発想による展開が必要である。
- ② 子どもまちづくり委員は児童生徒なので、学校や部活等の日程から意欲はあっても十分な参加が叶わないことが多かった。また、広報も不十分であった。



事業名

黒沢中学校 拡大同窓会

事業費（予算額）：1,800,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000 円）

P ・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

黒沢地域のこれからの暮しが心配です。地域は超高齢化を反映し人口減少が甚だしく、疲弊しきっています。広大な私たちの地域（40km以上）には、保育所も小学校や中学校そしてお店も全くありません。もちろん病院や農協・駐在所等の公的機関もありません。ここ黒沢では子育ても叶わず、若者が暮らすにはあまりにも厳しく**極端な生活不利地**です。しかし、この状態でも、手をこまねているわけにはいきません。何か**打開策**があるはずです。そこで、ひらめいたことが、黒沢がふる里の、日本中の人々に助けをを求めることでした。条件の悪さを最も理解されている方々との交流を始めよう。・・・その糸口が黒沢中学校の拡大同窓会です。

計り知れないお土産が期待できます。都会からのアドバイスやふる里応援団が出来ればとの思いもあり、計画しました。

D ・事業の概要

黒沢中学校の卒業生は、第1期生（昭和22年度卒）から閉校になった昭和50年度までの29期です。当時の在校生を合わせると31期827名です。近隣の卒業生約50人で実行委員会を立ち上げ、連絡が取れた人586名に案内状を送付しました。結果として430名から懐かしいコメントが届きました。そして都合をつけることが出来た、215名と関係者を含めて、230名が母校に集いました。

当日は、地元神楽団による神楽上演や校歌を合唱するなどして親交を深めました。また、遠方からの帰郷者に配慮し、公民館で宿泊できるよう準備しました。

今は、お家も田畑も何もない方々がほとんどです。50年ぶり・70年ぶりの声で会場は別世界。感激と嬉しさで、言葉が見つかりません。この取り組みによって、素敵な未来が描けました。まず一つは、ふる里の風や香りに飢えているという、みなさんの心が透けて見えたことです。そして、ふる里に帰ったからこそ正直な自分を出されました。片意地を張らずにそのままの顔で。

C ・課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

・上記評価の理由

- ◆この地域と縁が切れたと思われた人々との再会。
- ◆都会での苦労話から、癒しの場を見つけられた。
- ◆ふる里（黒沢）を応援したいという姿が見えた。
- ◆ふる里産品に目が向き、欲しがる声に応える意欲が生まれた。
- ◆当初のねらいである「ふる里サポーター」としての動きが見えてきた。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと （評価を10に近づけるために）

- ◆都会地に住む、同郷者との交流を深める必要がある。
- ◆ふる里のお米や野菜、そして山菜や加工品等を届けてほしいという声があったので、その声に応える体制づくりを急ぐ必要がある。
- ◆子供や孫世代と繋がるための策の強化づくりが特に必要である。



事業名

環境・景観保全事業（ひまわり園開設及び野山嶽景観保全事業）

事業費（予算額）：600,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000 円）

P

・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

1. 井野地区を全貌できる野山嶽の荒廃を防ぐ。（又、70年前の姿に戻したい）
2. 1を達成するため、現在ある畑に蕎麦やひまわりを栽培して現状の景観を保つ。
3. 井野地区住民が一同に集まり農作業やひまわり鑑賞など話し合いの場を作る。

D

・事業の概要

1. 現状を維持するため（ひまわり・蕎麦栽培）機械化。種・除草剤・肥料散布器、種まき機、草刈り機、そば種まき機、そば刈り取り機、そば脱穀機、そば砂選別機、製粉機の予備品等を購入。
2. 野山嶽へ来た人数が井野人口の約3倍の数となる。

★現状を維持するため高齢者の負担軽減が必要だった。そこでそば種まき機の開発、そば刈り取り機の開発を行い、そば石貫機を購入した。特に種まき機は会員の負担が大幅に減少できた。ただし、そば刈機開発は失敗したので今後の課題である。石貫機購入により、そば品質向上と手間が減少できた。

★井野高齢者クラブの会員104人の他、ひまわり園、そば栽培を含め350名を超える参加があった。

★ひまわり園内外から好評を得て多くの方に井野へ来ていただいた。野山嶽の登山道の整備を行ったが頂上から周囲が見えず不評だったので今後の課題とする。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○		
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

・上記評価の理由

★目標は9だったが、ほとんどがボランティア作業で一定人数の活動となった。畑を耕す・肥料をまく・草刈・野山嶽頂上道整備作業などが未達だった。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

1. 休耕畑の肥料施行機械化の改善
2. そば刈り取り方法の改善
3. そば脱穀機の改善
4. ひまわり種採取方法
5. 野山嶽登山道の整備改善
6. 野山嶽頂上付近の樹木伐採

